

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200867
法人名	(有)ケアセンターみやこじま
事業所名	グループホーム ふるる
所在地	宮崎県都城市安久町5596-1 (電話) 0986-39-6961
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 2 月 25 日

【情報提供票より】(21年2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	7.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(2月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86.3 歳	最低	60 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆうクリニック・柴田歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園や竹林に囲まれ、民家が点在する緑豊かな環境に建っている。「認知症高齢者の自立と尊厳を重視し、地域との連携と貢献」を基本に利用者の方が一人ひとりの力を発揮して生活できるように、真正面から向かい、待つことを大事にしながらケアに熱心に取り組んでいる。家族の来訪が多く、家族会も年3~4回開催され、利用者の暮らしぶりや健康状態を毎月報告する等家族との絆を深めている。また、人材育成に力をいれ、法人内外の研修に積極的に参加してレベルアップを図っている。利用者は、明るく細やかなケアに支えられ元気で安心して暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	薬剤の保管場所、管理方法について改善がされていた。またホーム便りの定期的な発行、災害対策として地域消防団への働きかけ、避難訓練回数を増やしたり、季節感ある雰囲気作りなど、改善項目について着実に取り組みをすすめている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価の意義や目的を全員に伝え、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族の代表、利用者の代表、市の担当者、公民館長、社会福祉協議会、民生委員等幅広い立場の人が参加して、2か月に1回開催している。事業所からの報告、参加者の意見等をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年3回~4回開催して、家族の意見や不満を表せる機会を設けている。家族の活発な意見を運営に活かしている。また、家族の来訪時に職員が必ず声を掛け、意見等が出やすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として、自治会に加入し、地区の公民館の行事に参加したり、地域の消防団との連携や婦人会のボランティアとの交流等取り組まれている。今後、さらに近隣の人たちとの交流も進むことを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症高齢者の自立と尊厳を重視する。私たちはグループホームとして地域との連携と貢献をはかる」を理念に揚げ、利用者が地域の中で地域住民と交流しながら安心して暮らし続けていけるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念について掘り下げて話し合い、理念を共有して、利用者一人ひとりのペースに合わせて、安心・安全に暮らしていけるよう日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節毎の行事等には、地域婦人会などのボランティアの訪問を受け踊りや歌を披露していただく等利用者との交流を図っている。また、徐々に地域住民の人がホームを見学に来て雰囲気を知ってもらうように取り組んでいる。		近隣の人たちとの交流も進むことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義や目的を管理者が全職員に伝え、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族代表、市担当者、公民館長、民生委員、社会福祉協議会、利用者代表等幅広い立場の人が参加して2か月に1回開催している。会議では、家族の出席もよく、活発な意見が出されている。運営状況の報告や避難訓練の実施方法等について話し合い、その意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は協力的で、運営上の課題や情報等について気軽に相談できる関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月利用者の暮らしぶりや健康状態等を記録し、報告している。また、年4回ふるる新聞を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回～4回開催して、家族の意見や不満が表せる機会を設けている。また、家族の来訪時に職員が必ず声をかけ意見等が出やすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職をできるだけ抑え、利用者が馴染みの職員に支えられ安心して生活できるよう努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、人材育成に力をいれ、法人内外の研修に積極的に参加させている。また、研修の結果はミーティング等で全員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅や病院等を訪問して馴染めるように配慮し、家族等と相談しながら、安心して利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に暮らしながら、生活の技や言葉づかい等多くのことを学び、お互いの信頼関係を築き共に過ごし支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の行動や表情から希望や思いを把握できるように努めている。また、家族とも暮らしの希望等について話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で充分話し合い、本人や家族の意向や希望を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3か月に1回定期的に介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や外泊、外出等の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるよう支援している。また、必要な利用者は、1か月に1回往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合の対応について、利用者、家族、かかりつけ医等と具体的な話し合いを行い、ケアについての方針を共有している。また、利用開始後も随時利用者、家族等の意向を受けとめている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の人格や誇りを損ねることが無いように、丁寧な言葉掛けや対応に配慮している。また、個人情報保護法の理解にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて、自分のペースで自由に暮らせるように希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら買い物、調理、後片付けなどを職員も一緒に行っている。食後、テーブルに広げて食器やお盆拭きなど一人ひとりの力を活かしたサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回だが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には無理強いすることなく、時間をかけて意向にそった支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが役割、楽しみごとが作り出せるよう働きかけを行っている。役割を持っている利用者には、その力がさらに持続できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時間によっては、利用者の希望に添えないこともあるが、散歩等には職員が1名付き添うなどして、できる限り添えるようにケアしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、日中は玄関の鍵はかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、訓練回数を増やし定期的に避難訓練を行っている。災害時には、地域消防団の協力を得られるようにしているが、近隣の住民への協力体制までにはなっていない。また、3月に夜間を想定した訓練を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取の不足がないよう見守りがされている。母体施設の管理栄養士の指導を受け、バランスのよい食事内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は全体的に余裕のある造りで、フロアにはソファがあり、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせる工夫がされている。各ユニットには、季節を感じられる飾り物がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのダンスや椅子、家族の写真等様々なものが持ち込まれ、居心地よく暮らせるように工夫されている。		